

平成 30 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

高校教育課

1 調査の対象校

- 県立高等学校 81 校（長野西中条校と篠ノ井犀峡校はそれぞれ 1 校としてカウント）
- 県立中学校 2 校

2 実施状況のまとめ

(1) 匿名性を担保した授業評価

() 内は H29 年度

		高等学校（実施率 100%）	中学校（実施率 100%）
今年度の実施回数	2 回	78 校（96.2%）（81 校）	2 校（100%）（2 校）
	1 回	3 校（3.8%）（0 校）	0 校（0%）（0 校）
実施校データ	回収率の平均	92.0%（96.9%）	97.3%（96.0%）
	自由記述欄への記載の割合	18.3%（17.9%）	34.0%（37.8%）
	集計のための人員・時間	平均 5.0 人（5.0 人） 平均 12.1 時間（11.3 時間）	平均 9.0 人（8.5 人） 平均 23.0 時間（28.0 時間）

※原則として 2 回目のデータで集計

(2) 匿名性を担保した学校評価

() 内は H29 年度

		高等学校（実施率 100%）	中学校（実施率 100%）
今年度の実施回数	2 回以上	19 校（23.5%）（20 校）	0 校（0%）
	1 回	62 校（76.5%）（61 校）	2 校（100%）
実施校データ	回収率の平均	生徒	81.2%（84.4%）
		保護者	64.3%（65.9%）
	集計のための人員・時間	平均 3.0 人（2.9 人） 平均 7.3 時間（6.3 時間）	平均 2.0 人（1.5 人） 平均 18.0 時間（13.0 時間）

※ 2 回以上実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

3 評価者へのフィードバック例

【授業評価】

- 被評価者（各教科担任）が、授業の中で評価者（生徒）に対し、評価結果を受けての授業改善方針や方法を説明。
- 学校評議員会やPTA総会等で集計結果を示し、前年度との比較を示しながら、特徴を説明。
- 授業評価結果のまとめを学校のホームページや学校だよりで公表。

【学校評価】

- 全保護者に、集計結果や改善内容等を通知。
- 学校評議員会、PTA総会や保護者懇談会等で集計結果を示し、前年度との比較を示しながら特徴を説明。
- 学校評価結果のまとめを学校のホームページや学校だより、PTA会報などで公表。

4 評価結果の活用例

【授業評価】

- 校長が各職員との面接時に評価結果を伝え、その後の授業改善に生かせるようにする。
- 校長による評価支援シートに関わる面接の資料として活用する。
- 職員会や教科会で評価結果を共有、検討し、授業改善に生かしている。

【学校評価】

- 校長と生徒・保護者の意見交換・コミュニケーションツールとして活用。
- 職員が気づきにくい学校課題の把握に活用する。特に、いじめ等の生徒間のトラブルの発見に利用したり、教員の体罰事案の把握等、非違行為防止に役立てる。
- 学校の運営方針策定の資料として活用し、学校目標の検討に生かしたり、問題意識の共有を図る。
- 学校の取組への肯定的な意見や感謝の声を、職員のモチベーション向上に役立てる。

5 今後の課題

【授業評価・学校評価共通】

- すでに学校に定着した取組となっているが、集計に要する時間が課題となっており、ICT技術の活用など新たな集計方法を導入することにより、時間短縮の工夫・改善を図るなど、効率の良い実施方法について更なる研究が必要である。
- 保護者に対する回収率の向上を図るため、各校の実情に応じた工夫・改善をしてみたい（保護者懇談会時における協力要請等）。

平成 30 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

特別支援教育課

1 調査の対象校

- 県立特別支援学校 18 校

2 実施状況のまとめ

- (1) 匿名性を担保した授業評価（準ずる教育課程校 8 校中）（ ）内は H29 年度

		実施率 100%	
今年度の実施回数	3 回	1 校	(1 校)
	2 回	2 校	(2 校)
	1 回	5 校	(5 校)
実施校データ	回収率の平均	95.6%	(97.1%)
	自由記述欄への記載の割合	52.9%	(33.0%)
	集計にかかった時間	平均 1.4 人 平均 4.3 時間	(1.5 人) (2.6 時間)

※2 回以上施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

- (2) 匿名性を担保した学校評価（県立特別支援学校 18 校中）（ ）内は H29 年度

		実施率 100%	
今年度の実施回数	2 回	3 校	(3 校)
	1 回	15 校	(15 校)
データ実施校	回収率の平均（保護者）	82.7%	(80.3%)
	集計にかかった時間	平均 3.3 人 平均 7.8 時間	(3.7 人) (13.4 時間)

※2 回実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

3 評価者へのフィードバック例

【授業評価】

- 集計した評価をもとに、それぞれの教科担任が授業の改善案を考え、教務会や部会等で協議し、校長・教頭が確認した。その後、改善案を児童・生徒に分かりやすいようにプリントにまとめて配布し、教科担任が、「これからは、〇〇のように授業を改善します」と説明した。

【学校評価】

- 評価結果（経年変化のグラフ化を含む）とその分析及び改善の方向案を担当者がまとめ、

教務会、職員会、部会等で協議し、PTA総会・PTA懇談会・学校評議員会等において、校長や教頭が説明したり、学校便りやホームページで公表したりした。

4 評価結果の活用例

【授業評価】

- 評価点の平均値を求め、値の低い項目に関しては部会で原因を検討し、具体的な対応策を立案して授業改善へ活かした。
- 自由記述欄に記載されていた要望や課題を教務会で整理・共有し、それをもとに各教科担任が授業改善を行った。
- 校長による職員面談の折に、授業改善やキャリア形成に関わる指導・助言をするための基礎資料とした。

【学校評価】

- 学校グランドデザインに沿った評価項目の設定を行い、評価結果を、次年度のグランドデザイン・職員研修の内容・校務各係（情報教育・健康教育等）の運営計画案・各部の運営計画案等を検討する際の参考にした。
- 登下校や災害時の対応等への意見については、次年度の学校PTAと市町村との懇談会における要望事項にも反映した。
- 教務会にて、自由記述欄の読み合わせを行った上で改善の方向を協議した。
- 毎年行っている評価項目（人権感覚に関する項目等）については、経年変化を見ながら、変化の要因を分析し、次年度への改善の視点を明確にするとともに、数年間の取組の成果や課題について整理した。
- 提出された評価票のデータ入力を各部の副部長に分担させ、自分の部の保護者や職員の思いをより深く理解できるようにした。
- 職員と保護者の意識のずれを明確にして、改善の方向を検討するため、Excelの集計表を使い、両者の評価を比較できるようにした。

5 今後の課題

【授業評価・学校評価共通】

- 平成31年度から設定することとした「長野県特別支援学校重点（長野県が目指す特別支援学校像を実現するために各特別支援学校が取組む重点項目）」について、各校の評価項目に取り入れてもらい、評価結果を集約し、県教育委員会として成果と課題の分析。
- 各校により、まとめ方や評価項目に違いがあることから、匿名性の担保の仕方や効率的な集計・分析方法、評価者への有効なフィードバックの仕方、地域との共有方法に係る各校の工夫や好事例の共有。

平成 30 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

義務教育課

1 調査の対象校

- **【授業評価】** 市町村（組合）立中・義務教育学校 184 校
- **【学校評価】** 市町村（組合）立小・中・義務教育学校 545 校（含分校 3）

2 実施状況のまとめ

(1) 匿名性を担保した授業評価

		校数（実施率 100%）
今年度の実施回数	3 回以上	13 校（7.1%）
	2 回	79 校（42.9%）
	1 回	92 校（50.0%）
実施校データ	回収率の平均	95.1%
	自由記述欄への記載の割合	23.3%
	集計にかかった時間	平均 7.7 人で計 8.1 時間

* 2 回以上実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計

(2) 匿名性を担保した学校評価

		校数（実施率 100%）	
今年度の実施回数	3 回以上	11 校（2.0%）	
	2 回	117 校（21.5%）	
	1 回	417 校（76.5%）	
実施校データ	回収率の平均	児童生徒	85.0%
		保護者	75.3%
	集計のための人員・時間	平均 6.9 人で計 9.2 時間	

* 2 回以上実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計

3 評価者へのフィードバック例

【授業評価】

- 評価結果を教科会や職員全体で組織的に分析し、改善の方向についてまとめたものを、学校便りや P T A ・学校評議員会の資料、ホームページで公開している。
- 評価結果のグラフ化、経年変化の比較により導き出した「授業改善に向けて大切にしたいこと」を各教室に掲示することで、取組の成果と課題を教職員と生徒で共有し、授業改善に生かしている。

【学校評価】

- 評価結果を教務会や職員会議で検討し、改善の方向や自由記述欄に書かれた要望に対する回

答を学校便りやP T A・学校評議員会の資料、ホームページで公開している。

- 学校が重点として取り組んできたことや保護者からの要望を受けて取り組んできたことを評価項目に設定することで、保護者が学校の方針や取組を理解しながら評価しやすくなり、学校と保護者の連携が深まっている。

4 評価結果の活用例

【授業評価】

- 段階的な評価は結果を数値化しやすいため、前年度の授業評価の結果から目標を数値化し、その達成度を検証する。
 - ・ 目標を「授業評価における“友とかかわりながら学んでいる”という項目について、「そう思う」の回答が80%以上になるようにする」等と設定することで、教員が目標を意識して授業を行うとともに、年度末の授業評価を通して達成度を検証した。
- 自由記述欄に寄せられた声を基に職員研修を実施し、互いの授業にどう生かせばよいか考える。
 - ・ 「宿題のやり方が分からない」という生徒からの評価を受けて、教職員が改善策を協議し合い、授業で学んだポイントを板書で示すとともに、それを駆使しながら家庭学習が進められるような宿題を提示した。
- 管理職が教職員に評価結果の伝え方を工夫することで、教職員の意欲の向上を図る。
 - ・ 管理職が建設的な意見や温かいコメント、全職員が取り組むべきことは職員会などで伝える一方で、特定の職員に対する要望などは面談などで本人に伝え、改善の方向を一緒に考えた。

【学校評価】

- 評価結果から見えてきた課題を整理し、改善の方法について教職員の意見を収集する。
 - ・ 評価結果から「高学年になると挨拶できる児童が少ない」という課題が見えてきたため、職員研修の場で、改善策を話し合ったことで、あいさつへの取組が児童会の活動に位置づけられるようになり、あいさつに対する児童の意識が向上した。
- 経年変化を分析し、継続して力を入れてきた取組がどう浸透しているのか把握した。
 - ・ 3年前、「自分の将来について考えることができている」という項目に対し、「そう思う」と回答した生徒が30%だったため、社会人や地元企業の方から「ほしい人材」等について話を聞いたり、文化祭において、進路の決め方について先輩から話を聞く機会を設けたりした結果、本年度は同項目の回答が70%になるなど、生徒の意識に変化が見られた。

5 今後の課題

【授業評価・学校評価共通】

- 評価結果の活用、公表の仕方については、学校の取組に差異が見られる。また、多岐にわたる個別の要望などへの対応について課題と感じている学校が多い。活用、公表の仕方については、校長研修会等で互いの取組に学ぶことができるよう工夫していく。
- 保護者からの回収率の向上、集計の効率化について課題と感じている学校が多い。保護者懇談の際に学校評価を配布する等の工夫により、回収率の向上を図っている学校や、マークシート、WEBアンケート方式を採用し、集計の効率化に取り組んでいる市町村等を参考に、引き続き改善策を検討してまいりたい。